慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 情報システムの有効活用のための組織内コミュニケーションのあり方について |
| Sub Title | |
| Author | 高橋敏昭(Takahashi, Toshiaki)<br>柳原一夫 |
| Publisher | 慶應義塾大学大学院経営管理研究科 |
| Publication year | 1988 |
| Jtitle | |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 修士学位論文. 1988年度経営学 第618号<br>複写許諾が必要 |
| Genre | Thesis or Dissertation |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001988-0618 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

No. 0618

学生氏名　高橋敏昭　　主査　柳原一夫

副査　青井倫一

所属ゼミナール　柳原一夫研　　髙木晴夫

# 情報システムの有効活用のための組織内コミュニケーションのあり方について

本研究は、情報システムをマネジメントしていくうえでの様々な課題を明らかにし、それをどの様に解決すべきかについての提案を行うものである。まず始めに第1章において、情報システムが企業に働く人々にどの様な問題を投げかけているかを具体的に明らかにする。次に第2章においてそうした問題に対して、問題を解決するための様々なアプローチについて、幾つかの文献から特に重要だと思われるものを紹介する。第3章ではこれを参考に筆者の問題解決のためのアプローチを導入する。筆者は情報システムの問題は、納期、品質、コストの問題であると捉え、この三つを改善するためには生産性の向上を図る必要があるという考え方を導入する。生産性を阻害する要因は、プログラミングの効率の悪さという技術的な問題を除けば、システム計画のずさんさ、組織構造の欠陥、ユーザーとシステム部門のコミュニケーションギャップの三つであると仮定する。これらを取り除くために企業文化の変革モデルを応用して、「情報システム戦略」のアプローチを構築する。これはシステム計画の方法論とユーザー参加型の組織と円滑なコミュニケーションからなる。戦略と名付けたのは、管理という言葉が大きな変化を想定していない静的なものを感じさせるのに対して、ダイナミックなもの、環境の変化、新しい状況に対応するものというイメージが戦略という言葉にはあるからである。最後に第4章では、この「情報システム戦略」を実際の事例に適用して分析を試みる。